

第4次日野市農業振興計画・前期アクションプラン(素案)に対するパブリックコメントへの回答

意見募集期間:令和5年12月11日(月)～令和6年1月15日(月)

意見総数:13件 多数のご意見をいただき誠にありがとうございました。ご意見に対する回答と計画への反映については、下記のとおりです。

	素案ページ	ご意見	市の考え方	計画への反映方法
1	資-26～	<p>世界的な食糧危機が叫ばれる中、日野市内の農地も、多くが宅地になり、日々、不安を感じています。</p> <p>スマート農業の促進などよりも、農地の確保が最優先課題ではないでしょうか。農家の方が農地を手放すのは、収入より課税が多く生活していけないからですので、もっと補助金を拡充し、土地は借り上げて、民間のシェア畑のような運用も試してみたいと思います。米は備蓄米として買い上げてほしい。</p> <p>家畜ふんの活用だけでなく、街路樹の落ち葉もたい肥に活用してください。</p> <p>また、日野駅北側にマンションが乱立した10年ほど前から、生協コープ前の用水路がゴミ箱と化しています。</p> <p>ボランティアに頼るだけでなく、市職員一丸となって、清流を守る啓もう活動、不法投棄看板設置を含め動いてほしい。</p>	<p>・市の考えとして、農地を保全するためには、農業者の農業経営の安定化が必要と考えています。また、就農者を増やすためにも農業が魅力的な職業でなければいけないと考えています。限られた財源の中でもより効果的な施策を検討してまいります。</p> <p>・用水路の管理については、これまでのような農業者による管理が厳しい状況となっています。水田・用水への市民の理解を広げ、担い手を広げていきたいと考えております。</p>	素案のとおりとします。
2	P34	<p>援農の会に参加する前は農業は勿論、家庭菜園のやり方すらわかってなかった、今も何もわからない素人ではありますが、素人なりの単純な意見を自由に述べさせていただきます。日野市の農業振興施策に何が良いのかといえば、例えば以下の様な取り組みをすべきでないかと思えます。</p> <p>1.「日野の野菜といえば〇〇野菜・〇〇穀物だ」というイメージができる新しいものをブランディング化促進企画として助成する。</p> <p>(いまある野菜候補)トマト、大根、ネギ等 (見慣れない西洋野菜)アーティチョーク、ロマネスコ、フェネル、スイスチャード、マンゴルト、シュピッツコール等 (栽培適地チャレンジ)オリーブが寒耐性化できたら都市農業には最高。</p> <p>2. 上記ブランド野菜栽培のエリア指定を行い、日野市内エリア特産品状態を作り出す。当面のコスト管理は全協力農家平均化、助成も同様。</p> <p>3. ブランド確立して流通が安定したら、日野ブランド野菜栽培体験ツアーや有料研修等を企画(日野野菜「七福神」巡り等のネーミングで)。 (人的労力は援農の会等が全面協力)</p> <p>以上、簡単ですが、上記の様な回転する活動ができれば、さほど都市観光地としてぱっとしない日野市に消費者が日参するのではないかと想像してしまいます。</p> <p>いかがでしょうか。</p>	<p>・日野産農産物のブランド化や農業による経済効果の波及については、いただいたご意見も参考に今後検討を行ってまいります。</p>	素案のとおりとします。
3	P40	<p>素晴らしい計画だと思います。</p> <p>援農ボランティアの活用を市内の高校にて農業体験・日野市の農業を知る機会を持てるようにするのはどうでしょうか(あるのかもしれませんが)。カリキュラムに組み込むのは至難かもしれませんが、子供たちにも日野の郷土を大切にすることを育んでもらいたいし、自分たちが豊かな人生を送る未来の選択の一つにしてもらいたいと思いました。</p>	<p>・小中学校での食育は行っていますが、高校生や大学生の農業体験の機会はそれほど多くありません。今後、若い世代に様々な農業体験の機会を提供できるよう、検討してまいります。</p>	素案のとおりとします。

4-①	p32～35	<p>1, 認定農業者への支援制度に関し、きめ細かな支援と活用しやすい補助金事業等は認定農業者にとって農業を続ける、あきらめない、やる気を起こすなどの観点から大変重要な施策と考えます。農業者あってのみどり、豊かな水流でありぜひとも継続を望みます。</p> <p>2, 農家数は全体的に減少する見通しの中で認定農業者は増やしていく方針、施策で心強い。ただ、認定農業者の数だけでなく農地、生産緑地で活用される土地の増加も期待するところです。また、認定新規就農者の獲得とその後のフォローアップ体制も継続して行われるよう望みます。</p> <p>3, 若手農業者への支援に関し、会の発足当初はかなりの周知と認知が進みメディアへの登場機会もあり、市民へ話題性もありその活動に期待していました。このところ活動が停滞気味と思え残念です。会員数を増やす施策や新規就農を目指す若手の手本となる会として大きく羽ばたけるような支援制度が創設されることを検討いただくよう願います。</p> <p>4, 日野らしい農業経営では拡充施策や新規の施策が多くあり、その中でも日野産農産物のブランディング研究を行うとあり期待しています。因みに東京オリンピックの時日野市がウクライナのホストタウンになり、日野の農家ではビーツを栽培したと記憶しています。新たなブランドを検討しては。</p>	<p>・新規就農者については、就農後も継続的な支援を行い、日野の農業の担い手を育成してまいります。</p>	<p>素案のとおりとします。</p>
4-②	p36～41	<p>1, 40年の歴史を持つ学校給食に日野産農産物の利用率25%の目標は米、麦の主食農産物の提供がない中、大きな目標であり関係者のご努力に敬意を表します。しかしながら実績のある学校給食への提供が区画整理の進展次第で農地が減り利用率の維持、拡大は難しくなるリスクを抱えているとのこと。日野市全域を俯瞰すれば未利用、未活用農地は多く見られます。区画整理事業用地の一時利用だけでなく、使用貸借を今まで以上に行政も深く関与出来る体制が取れることを望みます。</p> <p>2, 学校給食への出荷奨励策、配送支援や供給と品質維持等の支援策は農業者のモチベーション向上に欠かせない施策と考えます。しかし、どこまで、どれだけ支援することが農業者の生産力向上や農業所得アップに結びついているのかも併せて見ていくことも必要であり、その力を行政に求められていると思われまます。少人数所帯、人事異動短サイクルでは難しい面もあるでしょうが、自ら描いた施策を振り返る必要もあるのでは。</p> <p>3, 小学生の農業体験授業や学童農園の取り組みについて、現状17校実施とあり将来もその数を維持するとあります。農業体験というと収穫が大きな比重を占めて、じゃがいも、大根、サツマイモの収穫が多いと思われまます。農業は種まきも大事な作業であり、種まきから収穫までの一連のサイクルを会得して体験(狭い範囲であるが)と考えまます。農業者だけに任せることは難しいのであれば遊休農地/生産緑地を安価で借り上げ市民ボランティア団体に使用貸借で事業委託されることも一案と考えまます。</p>	<p>・農業振興計画の進捗管理については、市長の附属機関である農業懇談会において、毎年度実施してまいります。実施状況については、できる限り数値化し、客観的に評価を行います。また、これまでの実施状況を踏まえ、5年ごとにアクションプランを見直します。</p> <p>・経営耕地面積以外の農地面積については、多くが自給的農地になります。(「自給的農地」は、農地利用がされていない「遊休農地」とは異なります。)今後、農業者への貸借やコミュニティ農園等の利用等、自給的農地の活用について様々な検討の余地があると考えております。</p>	<p>素案のとおりとします。</p>

		<p>4, 令和2年==>令和15年/農地面積13,900a==>8,800a/経営耕地面積5,600a==>2,700a/認定農家の経営耕地面積3,210a==>2,000a 各々激減の見込みです。諸々の施策を設けても減るカーブをなだらかにする程度で、10年後の日野市には農地は3,000坪に満たない数字である。(本資料での農地とは生産緑地含むと解釈しています)経営耕地面積は農地の30%程度であり残り70%の現況はどうなっているのでしょうか。実情調査とマッピング、農業委員会の力量に期待しトラクタ耕起農地の有効化活用につなげ、やる気のある農業者への使用貸借を今まで以上スピードを持ち農地減カーブに結びつけるよう期待します。</p>		
4-③	p42	<p>【312】学校給食供給農家数の確保 日野産日野消を目指す学校給食に供給はあるゆる面で利に適った考え方で40年の歴史の中で子、孫もお世話になったことを有難く思います。 ただ残念なことは先々携わる農家が減るということです。指標では32から35へ増やすとの目標であり農家全体が減る環境下で継続施策ではむずかしいのでは。 例えば認定農業者は現在47農家とあり将来42戸へ減る見込みであるが認定農業者には学校給食供給が必然との項目を入れて供給農家の維持拡大に結びつけることを検討しては。 学校給食農家から聞こえる話で真偽はともかく大きなサイズの商品を要求されることが多く対応しているとのこと。出来不出来でなくサイズも選別の対象になればそれだけ手間はかかります。 供給農家が32戸の要因はどこにあるのか見えないので安易なことは言えないがサイズにとられない考え方も必要では。相反する調理師さんの手間増になりえるが小サイズ品の無駄にもつながりそうな気がします。供給農家の確保、増施策は地産地消の維持はともかくとして供給率の増減に関わり大切なことと思われれます。素案P.17にある令和2年・総農家数・販売農家数の表での273戸と120戸のギャップは何を物語っているのでしょうか。300㎡に見直された結果の生産緑地は手放さずに地面を残す意味では大きなことです。しかし本来の目的である耕す栽培するをおろそかにされている畑が多いと思われれます。高齢で携われないことは仕方ないことであり、他の活用も検討すべきです。</p>	<p>・学校給食供給農家の数の確保については、毎年行っている認定農業者へのヒアリング等の機会を通じ、促進しております。安定した農業経営を図るためにも、引き続き促しを図ってまいります。 ・学校給食用農産物の規格については、農業者・栄養士が綿密なコミュニケーションを図りながら決めておりますが、市場よりはかなり緩やかなものとなっております。学校給食は決められた時間内で効率よく作業を行わないといけないため、農業者の出荷の都合だけでなく調理の手間も考え、双方に良い調整が必要です。こういった調整を図るため、コーディネーターを導入しております。サイズについては給食向きの大きめの品種の作付けを促す等、コーディネーターの機能を強化していきたいと考えております。 ・販売農家数と自給的農家数の合計が総農家数となりますが、日野市では、自給的農家の方が多いのが現状です。農地の利用については今後、農業経営の観点だけでなく農地保全につながる様々な取組みの検討が必要であると考えております。</p>	<p>素案のとおりとします。</p>

4-④	P46～	<p>【332】農地の公有地化の検討 新規検討項目として農地保全に関する考え方、目指す方向性につきましては大変望ましいと考えます。資金面での大きな制約もあるのではと不安もありますが、地方では農地は有っても携わる人がますます減り、米の生産がおぼつかないと報道されています。都市の空き農地をかき集め麦、大豆専用に使えようという方向へつなげてほしい。 *現在の援農ボランティア制度は援農先(農家)へお手伝いに行き、その活動時間を取り纏め都市農業振興課やJA、農家、会員へ様々な形で報告しています。例えば332の施策が具体化した折には公有地での農作業も援農と解釈して行くと、携わる人も増えると思われれます。 尚、公有地での出来高物は学校給食に供給することが前提となります。</p>	<p>・日野市では今後ますます農地の減少がすすむことが予想されるため、今回の計画ではじめて農地の公有地化の検討を項目として追加しました。日野市の農業の発展につながる有効な方策を検討してまいります。</p>	素案のとおりとします。
4-⑤	p40	<p>【231】市民が支える農業都市農業シンポジウム の開催 本事案に関しては是非とも継続してほしいが主役は農家でありその本音が聞こえる設定も望まれる。また農家の後継ぎ世代の本音も聞くことに結びつくとなぜ農業を継がないのかが分かり対策の一助になるのでは。</p> <p>【232】農の学校運営 「農の学校」大変よい制度であり、近隣自治体には無い援農ボランティア活動者の育成する仕組みと思われる。 課題は受講者の減少であるように見受けられるが農家数の絶対数減少もあり必ずしも20人にこだわる必要はないのでは。数より質の向上が望まれるのでは。認定農業者、やる気のある農業者、給食用野菜生産者中心に援農ボランティアを紹介するよう転換してはいかがでしょうか。</p> <p>【233】援農ボランティアの活用 紹介斡旋のスタイルであり派遣とは一線を画す仕組みとのことであり3者協定の下で20年間継続実践されてきたことは素晴らしい。 無償ボランティアであり何らかの「報いる仕組み」があると励みになるのでは。日野市の登録ボランティアとして活動しているのであり考慮いただければと思います。</p>	<p>・今後の都市農業シンポジウムのテーマ設定の参考にさせていただきます。 ・援農ボランティア制度については日野市の独自の取り組みですが、多くの市民の想いにより事業を継続することができております。農業者、ボランティアの方の声に耳を傾け、ニーズに合った制度内容にしていきたいと考えております。</p>	素案のとおりとします。

4-⑥	p42	<p>【311】七ツ塚ファーマーズセンター「農の拠点」機能強化 直売所、食事処にて各々年間15,000円/30食程度利用しています。愚策かもしれませんが買い物カード(ポイントカード)によるサービス提供を検討されてはいかがでしょうか。</p> <p>何をしても人が来て賑わう場がなくてはなりません。フロアの制約もさることながら店外にもあるテーブル等も小綺麗にし他人の目を気にしなくて食べられるスペースを提供されては。豊田在住であり七ツ塚ファーマーズセンターに用事があるため北のはずれに出かけます。豊田・平山・南平近辺の方々に行くとは思えません。交通の便は大変悪く難しい場所です。農の拠点、農業者に無くてはならない場所、訪れざるを得ない空間にする。市役所の機能を週1, 2日で良いので一部行う。たとえば、認定農業者関連、補助金申請関連、農業者に関する定期会合等、行政にとっては行き来のロスタイム等検討しない理由、言い訳はありますが作ってしまった施設ですので使うしかありません、と思います。</p>	<p>・いただいたご意見も参考に、今後、七ツ塚ファーマーズセンターが市民に喜ばれ、積極的に利用されるような運営方法を検討してまいります。</p> <p>・七ツ塚ファーマーズセンターは市内の一部の地域からアクセスが良くないということがありますが、まとまった農地の残る東光寺地区にあるからこそできる農業体験拠点にしたいと考えております。いただいたご意見も参考に、農業者に必要とされる拠点機能を検討してまいります。</p>	素案のとおりとします。
4-⑦	P34	<p>【122】魅力的な加工品の開発支援 16ページ掲載で32品種もあるとのこと、正直驚きです。関係者のご努力とご苦勞は察しきれませんが、残念なことに見たことも食したこともない加工品も多く認知度は低く、PRもどのようにされているのか分かりません。</p> <p>みなみの恵み、七ツ塚ファーマーズセンターに並べてあるのか？一部の商品は目にしたことはあります。</p> <p>展示方法は日野開発商品コーナーを設ける、売り方は毎月数商品の割引展示販売を行う、広報でその旨発信する。それぞれSNS活用で足を運ばせる、目をむかせる。そして材料提供農家や開発者、製造者が見える展示も必要と思います。</p> <p>日野市にはグルメ情報誌「ひのうまいもん大図鑑」があります。その中に日野市の加工品ページを作り情報の提供をされてはいかがでしょうか。</p> <p>ルバーブジャムをみちくさ会にて加工商品化されており各所で目につきます。昨今の事情で650円に値上げされていますが市場価格に比して少々値が張るような感じですね。例えば「みなみの恵み」に陳列されていますが隣にある他生産者ルバーブジャムは安く設定されています。確かに「農福連携」の形で障害者施設にて製造している為の価格設定であればそれはそうとして「農福連携商品」とうたい宣伝すべきかなと考えます。</p>	<p>・市内で生産される加工品は、主にみなみの恵みや七ツ塚ファーマーズセンターで取り扱いを行っていますが、今後、SNS等を活用し、さらなる情報発信を行ってまいります。</p>	素案のとおりとします。

5		<p>コミュニティガーデン(●●農園、●●農園)で活動をしています。 農のある暮らしは都外に住んでいた頃より豊かで魅力的で楽しいです。 私は40代で子育て世代です。子供達も生ごみはゴミではなく資源だという考えが普段の生活から身についています。生ごみがゴミ箱に入らないと嫌な臭いもしません。とても軽やかに暮らせます。 もっと若い世代が市民農園やコミュニティガーデンに参加できる仕組みづくりが出来れば、益々この市が好きになり日々の暮らしに豊かさを感じ楽しく生活ができると思います。 日野市の給食は最高です。 自慢です。子供を通わせる親として安心しかありません。この地産地消の食を大切にしたい給食も維持していただきたい。 市民にできることがあれば協力したいくらいです。</p>	<p>・農業が暮らしの豊かさにつながるよう、市民とともに様々な取り組みをすすめてまいります。</p>	<p>素案のとおりとします。</p>
6	<p>資-20 p 47 p32、33 p33、34</p>	<p>・第3次日野市農業振興計画・後期アクションプランの実施状況報告(令和元年度～令和4年度)にて未達成/未実施項目が5項目ありました。その中の1項目;用水路の環境学習(小中学校での出前講座等) [現状] 6校 ⇒ [目標] 10校 が今回の第4次農業振興計画で、【336】用水路の環境学習(小中学校での出前講座等)の実施にて継続していますが指標は、実施のみの記述で具体的数値がありません。第3次と同じ様な数値指標を盛り込まないのでしょうか。また、他の未達成/未実施4項目は今回どの様な扱いとなっているか読取れませんのでそこを盛り込む、盛り込まないを含めた計画をお願いいたします。</p> <p>・【111】認定農業者への支援にてR10に目標値42戸で2戸の認定新規就農者が認定農業者として認定されることを目指すとし、【113】認定新規就農者への支援はR10に累計6戸で3戸増です。数値を合わせる必要はありませんか。</p> <p>・【114】若手農業者への支援 【115】女性農業者への支援 【121】日野産農産物のブランディング 【122】魅力的な加工品の開発支援にて確実に実施し、全国で話題となる日野市農業を目指し若手、女性、専門家の意見を取入れ魅力的な商品が開発される事に大きな期待をします。</p>	<p>・用水路の環境学習については、第3次農業振興計画の未達成項目となっているため、あらためて検討を行いました。その結果、学校の立地条件による(用水路に近接していないと難しい)ことが大きいこと等から、一方的な数値目標の設定は望ましくないと判断いたしました。</p> <p>・第3次農業振興計画で未達成・未実施となっている5項目については、今回見直した結果、①目標数値を変更したもの(用水路環境学習)、②別の項目に意味合いとして含まれているもの(防災協力農地、剪定枝チップ等の堆肥化)、③方向性を修正したもの(学校給食契約栽培品目、日野農業応援団)、④不要なもの(大規模災害時の支援策の活用)としております。なお、学校給食契約栽培品目の拡充については、奨励金の拡充よりも配送支援の優先度の方が高いことから方向性を修正いたしました。日野農業応援については、より多くの方へ情報発信が可能なSNSアカウントの運用を開始いたしました。大規模災害時の支援策の活用については、計画的に実施するものではないことから削除したものです。</p> <p>・認定新規就農者は、就農してから5年間であるため、認定農業者になるのは5年後となることが想定されます。そのため、数字がずれております。</p>	<p>素案のとおりとします。</p>

7	<p>p26、p39、p40</p> <p>p42、p45</p>	<p>■コミュニティガーデンや交流型農園は、現在アーバンファームの流れと共に日本でも増えてきています。日野市でも「●●農園」「●●農園」「●●」などのコミュニティガーデンがありますが、新規で【223】市民団体と連携したコミュニティ農園の展開、【224】交流型市民農園の開設が計画に盛り込まれたことはとても評価できます。</p> <p>■子育て中の若い世代が市民農園利用を利用しにくい理由として、子ども連れで農機具や収穫物を乗せて自転車で移動するのはハードルが高い事も理由の一つにあると思われます。駐車場や農機具置き場、休憩所を備え、子どもたちも気軽に参加できる「農体験や食育の場」が増えることを期待しています。</p> <p>■民有地でのコミュニティガーデンは相続が発生するとなくなる可能性があるため、平山や豊田の区画整理公園予定地の一面などの公有地に、防災機能も備えたコミュニティガーデン型の農業公園開設を計画されることを期待します。</p> <p>■循環型農業の推進・農の拠点について 地域内循環できる農業資材は落ち葉や剪定枝チップだけでなく、生ごみ、竹チップ・竹炭・イネ科の雑草・もみ殻なども有効です。 炭づくりは、「無煙炭化器」を使用すれば1時間ほどで完成するため、山梨の果樹農家などでも広がっています。 そのような資材を集めてたい肥化・チップ化・炭づくりができる場所及び保管できる場所が日野市にはありません。クリーンセンター横の防災センターの一面にコミュニティガーデン予定地がありますが、そちらを地域循環の拠点および農園にすれば、ゴミ減量にもつながるのではないのでしょうか。</p>	<p>・市民農園のあり方については、コミュニティガーデンや循環型農業等、様々な方策が考えられますが、市民のニーズの変化を捉えて今回の計画期間中に新たな運営方法を模索していきたいと考えております。</p>	<p>素案のとおりとします。</p>
---	-----------------------------------	--	---	--------------------

<p>8</p>		<p>【223】、【224】 コミュニティ農園や交流型市民農園の推進にとっても期待しています。 6年前、住宅地の中に畑がたくさん残っている風景に心惹かれ、日野市に転入しました。3歳0歳の子と共に体験農園に参加し、親子共に畑のある暮らしの豊かさを感じてきました。現在は●●農園というコミュニティガーデンで活動しています。 アンケートでもあった通り、時間のない子育て世代に市民農園や体験農園はハードルが高いという意見は周りでよく聞きます。コミュニティガーデンであればどんな立場の人でも気軽に農体験ができるので、ぜひ市内にたくさんそのような場所が欲しいです。市が農地を買い取るなどして、農のある暮らしを「みんなのもの」にしてほしいと思います。区画整理地の一時利用も、学校給食用に限らず市民の農体験にも使えるようにしてほしいです。</p> <p>【123】 日野市ゆかりの農作物も、農業者だけでなくコミュニティ農園などで市民が作ると、愛着もより一層増すと思います。●●農園でも種取りまでやって固定種の種を繋げる取り組みを行っています。</p> <p>【211～】 子供たちは美味しい給食を楽しみに登校していますし、日野市の給食は本当に素晴らしいです。美味しい地元野菜を提供してくださる近隣農家さん、地産地消を推進してくださる市の職員の方々、子供達のために長時間調理し素晴らしい献立を提供してくださる調理員さんや栄養士さん。本当にありがたく感じています。有機栽培の野菜の割合が高くなって、より安心安全な給食になってくれると良いなと期待しています。</p> <p>【323】 循環型農業の推進についても、とても期待しています。●●農園としても現在生ゴミや雑草の堆肥化を進めています。近隣の区画整理地の雑草など、こちらで自由に刈ってよければ堆肥が作れるし、近所の役にも立てるのにねといつもメンバーと話しています。そのあたりも、柔軟な対応をお願いしたいと思っています。</p>	<p>・令和5年度に実施した市民アンケートでも日野市は農地を残したい市民の割合が高い地域です。第4次日野市農業振興計画では、農業者支援だけでなく市民による農的活動についても記載しています。気軽に農業体験ができる環境づくりを行い、農業に対する理解を広げてまいります。</p>	<p>素案のとおりとします。</p>
----------	--	--	--	--------------------

9-①	<p>P17</p> <p>p23</p> <p>p24</p> <p>p25</p>	<p>出荷・販売状況 実践例はあるが、より多くのスーパーと連携し、地産地消コーナーを作っていくとより地元農産物を身近に感じられると思う。</p> <p>学校給食への供給 学校給食の充実が日野市の宝と言えるもので、後世に残していくべきものなので、今後も活動を活発に続けてほしい。他市町村出身者と話をしても、地元野菜を使った学校給食が小中出るとは羨ましがられる。もっと市の誇るべきものとしてPRしてもいい。農家から声が挙がっているならば奨励金の底上げも検討すると良いと思う。</p> <p>農業収入の向上と担い手の確保 農業、農的活動をやってみたいと感じる潜在的な人材は意外と多くいると感じるが、「農業は稼げない」イメージが強いので、就農者の定着が思うようにいっていないと感じる。市は色々な活動を通じて担い手の確保に取り組んでいただいているが、「就農し、どういった農業を展開すれば稼げるようになるか」をより具体的に普及員等と考え、モデル化していくと、農業を生業とする人も増えていくのではないかと感じる。</p> <p>農地の保全 文中に「他自治体では、生産緑地の買い取りによる農業公園の整備がすすんでいる」とあるが、例えば東京都の補助事業を活用するなどし、実際に動き出してほしい。全ての生産緑地を買い取ることはかなり難しいと思うが、基準を設け、特に優良で地域貢献度が高い生産緑地を保全してほしいと感じる。一般的に宅地化の方が地主にとっては利益になることが多いので、一昔前と異なり、行政が買い取るという新たな方向性に舵を切ることも検討してほしい。</p> <p>食育 今後もJAや生産者団体と協力し、収穫体験を始めとした農業体験を続けてほしい。特に子供はそういった経験をもとに農業に興味を持つケースは非常に多いため、先々の担い手確保の側面からもお願いしたい。</p>	<p>・学校給食の奨励金の品目拡大については、第3次農業振興計画に記載してはいたしましたが、農業者の高齢化がすすみ、配送支援の優先度が高くなっているため、今回の計画には記載しませんでした。</p> <p>・農業経営モデルについては、「日野市農業経営基盤強化促進基本構想」にて示しておりますが、東京都南多摩農業改良普及センターと連携を図りながら農業者一人一人に合った支援を行ってまいります。</p>	<p>素案のとおりとします。</p>
9-②	<p>p26</p> <p>p30</p>	<p>市民農園の応募について 子供、小中学生で土いじりや自然に接するのが好きな子は多く、また食育面でも増やしていくべきだと感じる。例えば市内の小中学生に市民農園を紹介すれば、その親御さんに話が伝わり、家族でやってみようという話になるかもしれない。</p> <p>農業経営の目標 所得目標が書かれているが、具体的にどういった品目をどれくらい栽培すればこの所得に達するか、簡単なモデルを示すと良いと思う。</p> <p><終わりに> この度は農業振興計画について意見を述べる機会をいただき誠にありがとうございます。日野市は様々な取り組みを通じ、農業に対する市の思いも感じられ、うれしく思います。今後、市の農業のさらなる発展を願っております。よろしくお願いたします。</p>	<p>・農業経営の目標については、「日野市農業経営基盤強化促進基本構想」にて、経営モデルを示し、目標達成に向けて様々な支援を実施しております。</p>	<p>素案のとおりとします。</p>

10		<p>コロナ禍で在宅勤務となって、家の近所を散歩することからはじまり、今では、●●や●●などに楽しく参加させていただいています。</p> <p>農業の知識はまったくなくても、私にもできることを教えてください。畑仕事を楽しんだ後には、食べきれないほどの野菜もいただける。気軽に参加でき、交流も楽しめる「●●」のようなコミュニティ農園(あるいは、農業公園?)がもっと増えてくれると、うれしいです。</p> <p>また「●●」が去年から始めた「子ども食堂」には、●●さんから野菜を無償で提供いただいています。子ども食堂も地元の農家さんに支えていただけるネットワークができれば素敵だろうな、と思っています。</p> <p>日野の給食は本当に美味しい！と良く聞きます。アクションプランにもありましたが、地産地消を進めるためにも、農地や農家さんの減少には歯止めがかかることを祈っております。</p> <p>そして、一昨年から「日野産大豆“復活”プロジェクト」を始めています。「まずは自分たちで育ててみると良いよ」と、これも●●さんのご好意により、畑を二畝貸して下さり、日野産の大豆を育てています。今はまだ小規模ですが、近い将来、地元産の大豆でつくった地元産のお豆腐を、再び給食で使ってもらえるようになると嬉しいです。</p>	<p>・子ども食堂と農業者の連携は、農福連携の良い事例ですが、今後そのような取組みが広がるよう、市としてできることを検討してまいります。</p>	<p>素案のとおりとします。</p>
11	P48～	<p>第5章 推進体制と役割</p> <p>1.本計画は誰のためにあるのかを考えると、農業者や関係機関ではなく最終的には消費者つまり日野市民が恩恵を受けるべきものと考えます。記載の推進体制図は様々な主体との連携をリングで表していますが、図の中心に日野市民(消費者)をしっかりと記載すべきと考えます。</p> <p>2.主体となる各機関の役割についてですが、本計画を主体的に推進するという点はもっともですが、その前に本計画実現のために何をやるのかを考えて、具体的アクションプラン+マイルストーン(時間軸と目標値)を実施計画として策定し、それに沿って実行する役割が各々にはあると考えます。</p> <p>3.日野市の役割として別途お願いしたいと思うことを以下に記載します。</p> <p>○本計画推進の全体統括(旗振り役)</p> <p>推進体制図には誰が最終責任者なのかが曖昧になっていると感じます。日野市が計画全体の旗振り役になり、各機関による実施計画の進捗確認、達成状況未達の時の支援を行うべきではないでしょうか。目標到達に向けた管理責任体制をより明確にできると思います。</p>	<p>・図5-1-1 推進体制の図については、様々なつながりがあり、決まった形で表すのは難しいため、図のような表現にしております。農業者支援、農地の多面的機能のさらなる発揮、環境に配慮した農業の推進等様々な施策による農業の振興が、豊かな暮らしにつながるよう、施策をすすめてまいります。</p> <p>・第4章にてアクションプランを記載し、年度ごとの指標等を定めております。実施施策が具体的に書けていないものもありますが、まずは今回の計画で方向性を示し、各関係機関と連携を図りながら取り組んでまいります。また、計画の進捗管理は日野市の付属機関である農業懇談会の意見を諮りながら全体の実施責任は日野市が負うものです。</p> <p>・新規就農者の掘り起こしや援農ボランティア制度等の支援策については、いただいたご意見も参考に、充実させていきたいと考えております。</p>	<p>素案のとおりとします。</p>

○新規就農者のリクルート

後継者不足、担い手不足の対策として、現在の体制だけでは限界があるのではないのでしょうか。日野市が自ら募集をかけるなども制度として加えて、新規就農者のリクルートを総合力で行うことはできないのでしょうか。現在の広報活動はまだ十分なまで届いていないように感じます。警察官や自衛官募集にあるようなポスターを学校や公共施設に貼り出して人材募集をし、ハローワークとの連携、あるいは日野市に通う大学生のための野菜栽培Keep Growingクラブのようなものをも開設することで、幅広い募集活動が展開できないかと思います。

○新規就農者への教育提供

現在の「農の学校」を改編し、これまでの「援農ボランティアコース」と、新たに創設する「農業経営コース」の2コース制に設計し直す。「農業経営コース」では農作業実務に加え、成功農園ベンチマーク研究や会計財務、農業で利益を生み儲ける仕組みなど、将来農家として自立していくために必要となる基礎知識を座学と実践を通して教え込む場の設定も検討することが必要と思います。

○新規就農者への農地提供

記載された農地の貸し手借り手のマッチングや遊休農地の公有地化には大いに期待しています。それに加えて(すでにご検討されているかと思いますが)、今後日野市外に移転する大規模企業の跡地を有効活用できないのでしょうか。具体的な状況を把握しておらず恐縮ですが、例えば日野自動車工場跡地のような広大な場所。すぐに農地転用ができないのであれば、セツ塚センター脇のラグビーグラウンドをそこに移設して、空いた跡地の利用も良いのではと想像します。いっそのこと会社を作り、希望者には期間を決めて社員になっていただき、その後独立のための支援を個別にするというのもありではないのでしょうか。

12	<p>p12</p> <p>p29</p>	<p>「認定農業者」及び「認定新規就農者」の基準「年間労働時間:1,800時間」は週休2日と仮定して1日約7時間農業に従事するという事で、ハードルが高いのではないのでしょうか。農業収入だけで生計を立てるのが難しい現状を考えると、もう少し緩和してもいいのではと思います。</p> <p>第3章 2. 10年後の日野の農業の姿 表3-2-2 水田面積の令和15年度目標値1haは少なすぎだと思います。令和2年度が畑37haに対して水田は4ha、畑面積の1割以上ですから、令和15年度の畑面積の目標値が23haであれば単純に計算しても2-3haが妥当です。さらに、畑に比べ水田は自然環境の保全や防災(洪水防止)、地下水涵養など多面的な機能を有すること、かつて日野が「多摩の米蔵」と呼ばれていた歴史、水田の消滅により用水路の存続も危ぶまれること、などを考えると、10年後であっても現状維持または増加に転じるぐらいの目標を設定しても良いと思います。農家だけに頼るのではなく、市民農園の田んぼ版、公民館の田んぼの学校の拡充、すべての小学校に1つ環境教育のための田んぼ、などの施策ができませんでしょうか。また、田んぼの営農にはトラクター、脱穀機、籾摺り機といった大型で高価な機械が必要で、機械の故障を理由に田んぼの営農をやめる農家があり、畑を水田に転用したりする際に機械がないことがネックになります。農協や市が水田耕作に必要な機械の貸し出しを行うことも水田面積を増やす施策として有効だと思います。</p>	<p>・年間労働時間の目標については、東京都の他の産業従事者や農業経営の事例と均衡する年間総労働時間の水準を踏まえ、「東京都農業振興基本方針」に示されている数字となっております。現在、日野市の農業者の労働時間の多くは1,800時間を上回っており、厳しい状況ですが、農業者の労働環境の改善を図るため、作業の効率化や整備支援等を実施してまいります。</p> <p>・表3-2-2については、農地面積ではなく、経営耕地面積の推移となっているため、実際の水田の面積とは異なります。また、経営耕地であるため、環境学習による水田やコミュニティ農園等は計算に入っておりません。経営耕地面積を増やすためには、現在農業経営を行っていない農業者が農業経営を行うことや農業経営を行っている農業者へ農地の貸借を勧める等が考えられます。推計値については、最近の減少率等から算出しておりますが、ここ数年間で、農地の貸借により農業経営を行う事例があることから、推計値・目標値を上方修正いたします。</p> <p>・農機具の貸し出しについては、計画として記載するには至りませんでした。今後検討したいと考えております。</p>	<p>・P29 表3-2-2 農地区別経営耕地面積の推移 推計値及び目標値を修正いたします。</p> <p>・P29 図3-2-2 農地区別経営耕地面積の推移 推計値を修正いたします。</p>
----	-----------------------	---	--	--

13-①	<p>P28</p> <p>p29</p> <p>P31</p> <p>p34</p>	<p>「みんなの個性が輝く新時代の農業へ」 →素晴らしい目標だと思います。 新時代の農業を創り出すためには「既存の枠」に捉われず、時代の変化に臨機応変に、新しいことにチャレンジし続けることが大切だと思います。前期アクションプラン(5年)という歳月は激動の時代において、長い年月です。その間にどのように社会情勢が変化するかわかりません。私自身、0だった耕作農地が、この5年で1haに増えました。プランに記載されていない事でもやるべき事があるかも知れません。決まったPlanのPDCAサイクルチェックに留まらず、時には新たなPlanをいつでも加えられるような、懐の深い計画の進め方であれば素晴らしいと思います。</p> <p>「10年後の日野の農業の姿」表3-2-2農地区別経営耕地面積の推移 →水田の推計値(令和15年)、目標値(令和15年)1haと記載がありますが、数字の変更を強く要望します。まず推計値0と数値が、あまりにも乱暴な推計であると思います。資料:農林業センサス(2005~2020年)と記載がありますが、どのような根拠で推計0の数値が出るのでしょうか?また、目標値も1haとありますが、現状1haを耕作し、新たな「農業経営改善計画」で5年後には1.5haの水田耕作を目標としている私にとっては、目標値は現状維持値でしかなく、市の策定する目標地が1haとは何とも落胆致します。私以外にも水田を耕作されている農家さんもいらっしゃいますし、もっと多くの水田を残せるはずです!より具体的な推計値と、次世代へバトンを渡す今の世代の私たちの目標値に変更をお願いします。</p> <p>111「認定農業者への支援」 →「認定農業者への支援」というアクションプランの数値目標指標が「新規就農者から認定農業者数へ2戸増える」というものでは、振興目標の実現に向けての内容としては弱いのでは?と思いました。各認定農業者が設定している目標を実現していくための数値目標を掲げてはいかがでしょうか?</p> <p>122「魅力的な加工品の開発支援」 →現状32個、目標40個の指標がありますが、私個人の取組みで2024年中に4つの新加工品をリリース予定です。市内全域での加工品開発数として数値指標を上方修正し、121「日野産農産物のブランディング」の項目に厚みを持たせる方が良いのではないのでしょうか?</p>	<p>・経営耕地面積を増やすためには、現在農業経営を行っていない農業者が農業経営を行うことや農業経営を行っている農業者へ農地の貸借をすすめる等が考えられます。推計値については、最近の減少率等から算出しておりますが、ここ数年間で、農地の貸借により農業経営を行う事例があることから、推計値・目標値を上方修正いたします。</p> <p>・認定新規就農者については、日野市としても増やしたい考えですが、現状を踏まえ、現実的な数値を目標といたしました。</p> <p>・122「魅力的な加工品の開発支援」については、農業者が個人で始められることも多く、日野市で集計を行うに当たっては苦労しているところです。直近で加工品開発への意欲のある農業者の状況を踏まえ、目標値を上方修正いたします。</p>	<p>・P29 表3-2-2 農地区別経営耕地面積の推移 推計値及び目標値を修正いたします。</p> <p>・P29 図3-2-2 農地区別経営耕地面積の推移 推計値を修正いたします。</p> <p>・P34 122「魅力的な加工品の開発支援」の指標「加工品生産数」の目標値を修正いたします。</p>
------	---	--	--	--

<p>13-②</p>	<p>P46</p>	<p>322「農地(生産緑地)の公有地化の検討」 →用水路と水田は、緑と清流のまち日野の宝であると思います。次世代に用水路と水田をどれだけ残せるか？ 今、そこに関わる私たちのアクションで大きく変わります。七ツ塚ファーマーズセンター周辺の生産緑地の公有地化を検討、とありますが、用水路に隣接する水田の公有地化もぜひ進めて頂きたいです。無くしてからでは遅いです。田んぼが無くなった都心から、わざわざたくさんの人たちが田んぼに来る現実があります。畑を公有地化しても用水路は守れませんが、水田を公有地化すれば、その上下流を流れる用水路も活かす事が出来ます。畑は「点(拠点)」になり得ますが、水田は拠点にもなり、隣接する用水路は地域と地域を繋ぐ「線(脈)」にもなります。水田の公有地化こそ、日野市にしか出来ない「個性」であると思います。公有地化された水田脇を流れる用水路を、多くの市民が関わり、維持、活用する新時代の用水守事業を立ち上げましょう。日野市各所で水田の公有地化を進める事は「今」の私たちしかできない判断です。10年後はすぐです。450年前の先人から引き継いだ用水路を、100年以上先の日野市民に残して行きましょう。</p> <p>最後に全体を通して思ったことをお伝えさせていただきます。計画の目標は素晴らしいと思いますが、具体的なアクションプランに落とされたものを拝見すると、「農地の減少」をいかにして抑えるか？という消極的な内容に留まっている印象です。特に水田に関わる事業に関して、そう感じました。2020年問題によって水田が大きく減少することを何とかしたい！そんな気持ちから新規就農した私にとって、R6年から10年間の日野市農業振興計画で水田維持に関する大きなアクションプランが無いことに、ショックを受けています。「水田の減少を抑えるアクション」では限界がある10年です。「水田を残すためのアクション」を決断、実行しなければならない10年です。この二つは違うベクトルのものです。今までのアクションの延長ではなく、新たなアクションプランを創りましょう！具体的には「水田の公有地化事業」「用水路の新しい維持・活用事業」「稲作に関わる文化の維持・発展事業」これらが「100年先のTOKYOで輝く、緑と清流のまち日野のブランディング」だと思っています。</p>	<p>・【332】農地の公有地化については、今後検討を始めていく項目であるため、畑に限った記載ではなく、水田についても検討する必要がありますと考えております。</p> <p>・日野市としても、水田は日野市の貴重な財産として残すべきものという認識です。しかしながら、米の価格低迷により収益性が低く、また、気温上昇により栽培が難しくなっており、農業経営を成り立たせるためには、農業者個人の力が大きいのが現状です。公有地を含め、具体的なアクションを記載することが難しい状況ですが、様々な検討を行い、水田を残していきたいと考えております。</p>	<p>素案のとおりとします。</p>
-------------	------------	--	---	--------------------